

古楽府「何嘗 艷歌何嘗行」（『宋書』卷 21・樂志三）

何嘗快独無憂	どうして 愉快に ただ憂い無くしていられよう
但当飲醇酒	もっぱら芳醇な酒を飲み
炙肥牛」	肥えた牛肉を炙ることだ 一解
長兄為二千石	一番上の兄は禄高二千石の高官で
中兄被貂裘」	中の兄は貂の皮衣を着る裕福な身分だ 二解
小弟雖無官爵	末の弟は 官爵を持たないとはいえ
鞍馬馭馭	鞍をつけた馬を颯爽と走らせて
往来王侯長者遊」	王侯や富貴の人々と交遊している 三解
但当在王侯殿上	ただ王侯の御殿の上で
快独携蒲六博	愉快に 特に 携蒲や六博や
对坐彈碁」	対座して弾碁に打ち興ずるがよい 四解
男兒居世	男子はこの世にあって
各当努力	それぞれにがんばらなくてはならない
蹙迫日暮	時はひたひたと迫って日は暮れて
殊不久留」	いまだかつて久しく留まったためしはないのだ 五解
少小相触抵	小さな頃から世間様にぶつかってばかりで
寒苦常相随	いつも苦勞がまとわりついてきました
忿恚安足諍	憤り恨んでも どうして諍いを起こすほどのことがあります
吾中道与卿共別離	わたしは道の半ばでお前さんとお互い離れ離れになります
約身奉事君	心身を引き締めて（お前さんは）君主様にお仕えし
礼節不可虧	礼節に欠けるようなことをしてはなりません
上慚滄浪之天	（夫と別れゆくわたしは）上は青青とした天に対して面目なく思い
下顧黄口小兒	下はひな鳥のような幼子を顧みます
奈何復老心皇皇	いかんせん また年老いてゆき 心は喪失感で揺れ動きます
独悲誰能知	ひとり悲しむ このわたしの気持ちを誰が分かってくれましょうか

「少小」下為趨曲、前為艷。 「少小」より下は趨曲、それより前は艷である。